

# NEWS LETTER

Vol.0 2018総括編

発行：基幹型包括支援センター  
NPOまち育てセンターりた、岡崎市長寿課  
20の地域包括支援センター

～地域包括ケアと地域共生社会の実現に向けた学びを共有するゼミ～  
包括ゼミ2018のあゆみと成果をまとめました。

急な坂が多い地域で暮らしやすいまちにするために  
by 竜美包括（三島学区、竜美丘学区）

包括支援の狙い  
総代会、福祉委員会、民生委員、老人クラブなどの  
複数の組織が集まり、地域に横ぐしをさして、地域づ  
くりを進めます。

【地域特性】学区内には主要な駅やスーパーもあるが、急な坂が多く、高齢者が杖やシルバーカーを利用しても移動が難しい地域である。岡崎市の中心という立地がいい地域なため、所得の高い層が多く暮らす一方集合住宅も存在しているので、町内ごとに高齢化率や地域課題が異なっている。

【キーパーソン】総代会長、学区福祉委員長、民生委員会長、老人クラブ会長 三島 【経過】A案：歩こう会 B案：まちカフェ C案：健康講座

3つの案を試験的に実施して、次年度以降の方針を決めていく。

【成果】歩こう会（乙川、野鳥の森）、まちカフェ、健康講座開催

【課題】役員の業務量が多い、近くの人しか来ることができない

【方針】A案は世話役を中心に継続。BとCとサロン活動やいきいきクラブを全体として見直して実施していく。

竜美丘【経過】以前は認知症声かけ訓練を実施していた。お助け隊を作りたいという目標があるが、ひとつの老人クラブが実施しているのみの中で担い手がない。ごまんどく体操＋カフェを増やして参加者同士のつながりを作る。相談先の分かる媒体を作成する。

【成果】ごまんどく体操が7か所に増加、町ごとにフローチャート作成。

【課題】災害時要援護者の台帳管理や支援について議論が必要。

【方針】各組織の見守り活動を整理。災害時要援護者支援を検討。

2018の成果！



自分事として話し合い、我が事として取り組む土壌作りをしました。多くのかたが、話し合いや実際の事業に参加する中で、地域づくりが進みました。

包括支援の狙い

六ツ美の連携意識の中で、4学区が互いに課題を共有しながら、刺激し合ってまちづくりをする機運を高めます。

協議体立ち上げに向けた六ツ美まるごと交流会のしかけ  
by むつみ包括、南部包括（六ツ美圏域）

2018の成果！



【日時】 2019年11月19日（火）13：30～15：30

【会場】 悠紀の里多目的ホール  
（岡崎市中央町上丸ノ内7番地4）

【趣旨】 ①各学区の介護予防活動について知る。  
②他学区の介護予防活動について知る。  
③リハビリ専門職員の講話と交流会を通じ、地域の中でどのような関わりが待てるかを考える。  
交流会を通じて意見交換を行い、今後の各学区の取り組みの参考にする。

なぜ、地域包括支援センターが地域づくりをしているのか、なぜ地域包括ケアの実現が急務なのか、住民と共有できたことが有意義でした。

【地域特性】六ツ美北部：学区福祉委員会の人数、組織が大きく、各部ごとに取り組みができているという自信がある。高齢化率が低い。

六ツ美西部：比較的新しい学区で高齢化率も低い。

六ツ美中部：高齢化率が高く、民生委員と福祉委員の問題意識が高い。町ごとにサロンを実施している。

六ツ美南部：まちづくり協議会有り、防災について話し合いをしている。多世代交流に力を入れている。

【キーパーソン】総代会長、学区福祉委員長、民生委員会長、老人クラブ会長

【成果】平成30年11月：六ツ美まるごと交流会を開催。高齢化率が低い学区は、今後高齢者数が大きく増加するという課題を共有。

六ツ美西部：災害時避難行動要支援者や各組織の見守り活動の重複について課題意識あり。六西福祉を考える会H30.9立ち上げ

六ツ美中部：まるごと交流会をきっかけに総代を巻き込むためにH31.1まるごと交流会報告会を実施。協議会立ち上げ。

【方針】学区ごとに課題や組織が異なるため個別に取り組みをするが、年に1度は、まるごと交流会を開催し意見交換をしていく。

編集後記：地域包括支援センターが20か所あるため情報交換が難しく、「他のセンターはどうやっているの？生活支援コーディネーターってどうすればいい？」という声の中でゼミが始まりました。まちづくりの専門家であるりたのみなさんと、福祉の専門家である包括職員と一緒に議論する中で、地域のネットワークが広がってきました。来年度は地縁組織だけでなく、市民活動団体や企業と、もっともつなげていけるといいなあとと思っているこの頃です。